玉名の遺跡
シリーズ⑦

尾田貝塚（おたかいづか） 市指定史跡

【お問い合わせ】
玉名市教育委員会
文化課文化財係
TEL:0968-75-1136
bunka@city.tamana.lg.jp

有明海沿岸には多くの貝塚が分布していますが、尾田貝塚もそのひとつです。この貝塚は、標高４～７ｍの低丘陵上に位置しており、70～100m四方の範囲に広がっていると考えられています。昭和３７年に、玉名高校考古学部が発掘調査を行っており、縄文人骨や土器、貝製品、骨角器などが出土しています。

■尾田貝塚の概要　　縄文時代前期～中期の貝塚

尾田の丸池

昭和３７年に玉名高校考古学部が実施した発掘調査によって、縄文時代前期と中期の土器が混入する貝層が層位的に確認されました。県内を代表する縄文土器である曽畑式、轟式、阿高式土器などが層位的に確認された貝塚として考古学史的にも重要な遺跡です。

尾田貝塚の周辺には、湧水地があります。縄文時代の頃、海はもっと近く、水量も豊富であり、生活の場としては最適だったと考えられます。山も近くて、シカやイノシシなどが狩猟されていたのでしょう。多くの貝類・獣骨などが出土しています。

尾田貝塚（指定地）
（尾田地区の地蔵堂境内が指定地です）

尾田貝塚に散乱する貝殻

尾田貝塚の土層

← 現在の地表面

縄文中期（3,800 年前）
阿高式土器 が出土

縄文前期（4,800～4,000 年前）
轟式土器 が出土

縄文前期（5,100 年前）
曽畑式土器 が出土

考古学の基本は、土層の確認じゃ！
上の層よりも下の層から出る土器の方が古いということじゃ！

阿高式土器（あだかしきどき）とは？

粘土に滑石の粉を混ぜてあり、文様も派手な沈線文があります。

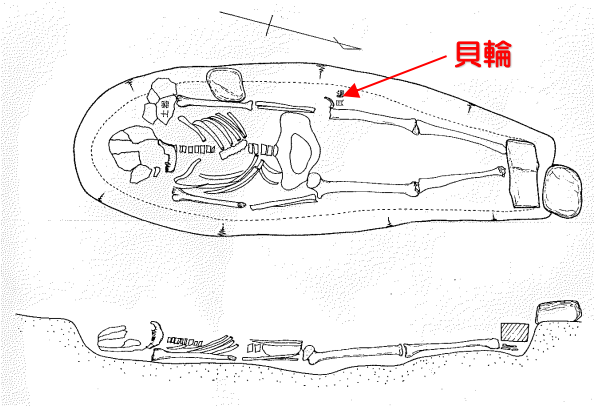
轟式土器（とどろきしきどき）とは？

表面は貝殻であらくなでてありミミズばれ状の帯が数本あります。

曽畑式土器（そばたしきどき）とは？

縦・横・斜め方向の直線を組み合わせた文様が特徴です。

■尾田貝塚出土の人骨　～　貝塚をきずいた縄文人　～



貝塚の中に掘りこまれた土壙から、縄文時代中期の完全人骨１体が出土しています。全身を伸ばして埋葬する「伸展葬」ですが、胸と足元に安山岩の板石を載せたようにして埋葬されていました。また、左腕付近から貝輪が出土していますが、装着したまま埋葬されていたかはわかっていません。

人骨は、分析の結果、身長 156 ㎝の壮年男性と推定されています。阿高式土器を用いた時代の縄文人です。

■尾田貝塚の出土品　～　よみがえる縄文人の生活　～

尾田貝塚の曽畑式土器

尾田貝塚の阿高式土器

貝塚は縄文人のゴミ捨て場ですが、当時の生活がわかる宝の山でもあります。当貝塚からは、多くの貝殻、縄文土器片の他にも、貝製品（腕輪など）や、シカやイノシシの骨・牙で作られた骨角器などが出土しています。また、掲載していませんが、石器（石斧・石錘・石鏃など）も出土しています。

尾田貝塚出土の貝

貝肉を採ったあと（アカニシやアカガイ）

貝類はアゲマキ・カキ・ハイガイ・テングニシなどが多く出土しており、これらを好んで食べていたようです。

縄文人の生活（「天水町史」より）

貝輪（サトウガイ製）

貝輪は、アカガイの仲間であるサトウガイを利用したものが多く、未成品を含めると３２点出土しています。

尾田貝塚出土の獣骨など

シカの角を利用した刺突具

尾田貝塚出土の骨角器